

令和3年度 宮崎県立高鍋高等学校 学校関係者自己評価・学校評価用紙

学校経営 ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりがもてる力を十分に発揮して、自己実現に邁進する力を育む。 どんな大変な時でも、自ら一歩足を出せる自己復元力をもった、前向きな人間力を育む。 社会に貢献できるたくましい人材を育成する。 		評価基準	4：十分達成できた 3：概ね達成できた 2：やや期待を下回る 1：不十分であり改善を要する		
	【目指す学校像】・普通科・探究科学科・生活文化科の3つの科が伝統を守りつつ、一緒になって人財の育成に挑戦していく学校 ・保護者、地域、同窓会との連携による信頼され愛される活力ある学校 【目指す生徒像】・自ら求めて学び、高い志をもって、前向きに考えて目標に挑戦し続ける生徒 ・ニコリ笑って、「先生！大変だけど楽しいちゃが」と言える高校生活をする生徒 ・真面目に誠実に取り組み、苦労している人にはさりげなく差し伸べる生徒 【目指す教職員像】・生徒をやる気にさせて、自己肯定感を育み、自らも謙虚に学び続ける教職員					
重点目標	評価項目	評価指標（手段・ゴールイメージ）	自己評価		学校関係者評価	
			具体的取り組み（○成果、●課題、△継続的な課題）	評価	具体的意見	評価
1 確かな学力の 向上と進路実現	学力の向上	1. 基礎学力・学習習慣の定着につながる取り組み 2. 個別指導の充実 3. 校内授業研究の充実 4. 模擬試験等の活用 5. 学力検討会の充実	1. OBUの期間設定を工夫し、授業時間が確保された。 ○生活の記録を活用し、学習状況の様子を把握した。 ○小テストの指導を徹底し、学力がついた生徒が多かった。 ○朝から小論文の活用により、生徒の文章力が上がった。 ●どの定期考査でも欠点保有者がいた。成績下位層固定化。 ●スマホの使用時間増加等による自宅学習不足を感じる。 △コロナ禍でも学びを止めないシステムの構築。 △十分な予習をしてからの授業参加を徹底させる継続的指導。 △文武両道のために部顧問と担任等が連携し学習時間を保障。 △学習方法がわからない生徒に勉強の仕方から指導する。 △学習時間把握のため学期に1回の自宅学習調査を実施する。 ○志望大学別の添削指導を行い、入試問題の難易度と実力を認識させた。 ○定期テスト前に指導を要する生徒に個別に指導をした。 ●進路実現のため生徒自らが個別指導を希望する意識の涵養。 △定期テスト対策に終わらず「自学ができるようになる指導」に切り替える。 3. ○活発な話し合いが行われ、研究授業も実施された。 △授業内容と学力定着の関連にさらなる研究が必要である。 4. ○目標点を意識しながら模試に取り組むことができた。 △模試の定分析に基づいて進捗や定着度を観て、授業を見直し企画・実践する必要がある。 5. △学力検討会を、授業実践結果をもとに改善方法や取り組みを具体的に出し合う場とする。 △学科・コースで実施日を分ける等の工夫をする。	3.4	●成績の二分化。下位層の危機感が足りない。「赤点をとらないことを目標としている生徒が見られ、評定等で上を目指そうとする意識が足りない。 ●スマホの持ち込みを許可しているが、学習等への活用がなされているのか疑問。授業の妨げになっている印象が強い。 ○授業改善にしっかり取り組んでいると思う。 ●高校入学後、早い段階での進学進路指導をした方がよい。 ●「中学校の延長」という雰囲気強く、「進学校らしさ」に欠けるため、地元の中学生の「鍋高離れ」がみられる。進学への意識付けを早めにして実績を伸ばしてほしい。 ○授業公開は良い取り組みなので継続して欲しい。	
	進路実現	1. 進路の早期目標設定の支援 2. 入試（大学・短大・専門学校等）の研究及び組織的な取組 3. 就職等多様な進路希望への対応 4. 校内でのキャリア教育の充実 5. 総合的な探究（明倫）の充実	1. ○1, 2学期のBUタイム等を活用した2者面談複数回実施。 ○コロナ対策をしつつ進路ガイダンス、出前講座を実施した。 ○今年度から金曜講座を実施できた。 ●コロナ禍で保護者との面談が十分にできなかった。 ●コロナ禍で2年生がOCに参加できなかった。 △学年が上がる前の3学期にもBUを設定し面談時間を確保。 △夏休みや学年が変わる時期に、卒業生や先輩の話を聞く機会を設ける等生徒の進路意識を高める仕掛けをしていく。 2. ○大学・短大とも小論文や面接練習など組織的に指導した。 ○各大学の添削指導を行い、難易度と実力の差を意識させた。 ○専門学校の小論文指導や面接指導を教科に関わらず組織的に指導することができた。 ○推薦入試の指導を9月からスタートし、余裕をもって計画的な指導ができた。 3. ○公務員対策として朝課外の充実を図り組織的に対応できた。 ○就職指導は担任・担当・ハローワークが連携を図り、スムーズに行うことができた。 ○就職への対応・指導が計画的に行われた。 ●進路説明会等がコロナ禍で中止になった。 △就職希望者の基礎学力を3年間でしっかりつける。 4. ○OCクラスと生活文化科で、地域の協力によりコロナ対策をしながらインターンシップを実施できた。 ○地域を活用した組織的なキャリア教育体制を構築できた。 5. ○明倫の時間の充実を図ることができた。 △明倫の時間に行った探究的な学びの成果を進路達成にどうつなげていくかの検討と生徒の意識づけ。	3.1	3.5	
2 豊かな心の 醸成と基本的な生活 習慣の確立	基本的な生活 習慣の確立	1. 自己管理能力の育成 2. ルールを遵守し、モラルやマナーを大切にする生徒の育成	1. ○朝の読書や正姿に主体的に取り組めるようになった。 ○容儀指導の基準を見直し、生徒による自己管理の意識が育ちつつある。 ○服装容儀や挨拶は概ね良好。今後も日常指導を大切にする。 ○大部分の生徒は時間通りに登校している。 ●安易な遅刻・欠席が散見し、遅刻する生徒が固定化。 ●学校生活における生徒のコロナ感染症対策意識の不足。 ●2分前着席の徹底ができていない。 ●部活動の練習時間や下校時間の遵守が徹底できていない。 △欠席・遅刻者への声掛けや指導の工夫が必要。 2. ○昨年度から携帯電話の持ち込みを認め、基本的なルールを定めて、生徒・保護者に周知し、理解を図る取り組みの継続。 ○登校時の自転車のマナーは前年より改善した。 ●携帯電話を校内で不適切に使用した特別指導があった。 ●自転車の未施錠が多い。 △携帯電話の校外での利用についても継続的指導が必要。	3.2	○先日、横断歩道で止まってくれた車に対して、丁寧に礼をしている女子生徒の姿を見た。受け継いでほしい高鍋高校生らしさだと思う。 ●部活動によって、活動時間が遵守できていないところがある。 ○卒業式で生文科の生徒のおじぎが美しかった。学校での学んだビジネスマナーがしっかり身につけていると感じた。	
	人権意識の 高揚と心の 教育の実践	1. 人権教育の充実 2. 多様な生徒への対応や教育相談の充実	1. ○念入りな指導案と資料を使い、充実した内容で実施できた。 ○生徒が人権についてあらためて深く考える機会となった。 △学校生活のあらゆる場面で人権教育の場であるということをも職員で意識して取り組みを進める。 ○各学期で教育相談アンケートを実施し、いじめやからかいなどの行為の状況把握と未然防止に努めた。 2. ○教育相談部や保健室を中心に生徒の相談に対応できた。 ○初めて学校私費によるカウンセラーを導入し、生徒・保護者、職員に対して適切なアドバイスを受けることができた。 ○状況に応じて外部専門機関等と連携しつつ対応した。 ○強い特性を抱える生徒に対しては、ケース会議を開いて関係職員で情報を共有し、組織的に指導にあたった。 ○担任を中心に組織的な対応をすることができた。 ●コロナ禍の中で高鍋保健所との連携ができなかった。 △今後は医教連携を進めていく必要がある。	3.3	3.6	
	美化意識、 防災意識の 醸成	1. 校内美化、清掃活動の充実による「気づく心」の育成 2. 防災教育の充実	1. ○毎日の清掃は師弟同行で行うことができた。 ○自分の担当箇所の清掃後、他を手伝う生徒が増えてきた。 ○SHR等での担任の声掛けて教室環境美化が保たれていた。 ○クラスの花壇を日頃から手入れし、花壇コンクールを計画的に実施できた。 ●校内の工事やコロナの影響で清掃ができない日が多かった。 △ゴミの分別に対する意識づけが必要。 2. ○コロナの影響はあったが2回の防災訓練を行った。 ○事前告知なしで訓練を実施したが、生徒はスムーズに非難ができていた。 △防災訓練の非難ルートを改善していく。 △今後もコロナに配慮した訓練の計画が必要である。	3.7	3.7	

3 地域に関わり信頼される活力ある学校づくり	地域・保護者及び小・中学校との連携強化	<p>1. 中学校・地域との連携推進</p> <p>2. 地域人材や企業の積極的な活用</p> <p>3. 児湯学友団コンソーシアム(KGC)との連携体制構築</p> <p>4. PTA活動の活性化</p> <p>5. 保護者との連絡体制の整備</p>	<p>1. ○小中連携の研究会に、本校職員が定期的に参加した。 △地域の塾にも参加を呼びかけ、意見交換を行う必要がある。 ●イメージが先行して本校の取組が正しく伝わっていない。</p> <p>2. ○1年生は地域の企業と連携し、地域学習を実施した。 ●探究化学科や生活文化科の取組の中で、地域に協力して実施するものが、コロナのために実施できないものがあった。 △地域の人材の活用を通して、地域の理解とともに、進路に関する理解や目標を見出せるような学校としての取組をする。</p> <p>3. ○今年度から発足したKGCがオープンスクールの際にバスを出す支援してくれた。 ○KGCの人材育成事業に、本校生徒が参加することで中学生・高校生両方にとって価値がある活動ができた。 △KGCと連携して、中学校への本校の実践PRを進める。 ○今年はコロナに感染対策を徹底しPTA総会を実施できた。 ○PTA理事会は5回中4回実施でき、コロナ禍におけるPTA行事の在り方について協議することができた。 ●コロナの影響で、奉仕作業やレクレーションの計画が中止となった。 △本当に必要とされるPTA活動を検討し、PTA理事の方々と協力して、工夫・改善していく。</p> <p>5. ○学級通信やメールで日頃から保護者と連絡をとる担当が増えた。 ○各担任が家庭訪問や3者面談を積極的に行い家庭との連携の充実を図っていた。 ○コロナの状況について、メールとHPの両方を使って迅速な連絡を行った。 ●保護者に連絡をしても読まれているかの確認ができず、生徒に連絡が届いていないことがあった。 △日頃から確実な保護者への連絡体制を構築することが重要。</p>	2.9	<p>●地元の中学生や保護者にとって、高鍋高校は進学校というイメージが薄れてきている。</p> <p>●宮崎市内の高校への進学を念頭に入れて私立中への進学を考える保護者もいるため、小中高の一層の連携を図り、地元の学校に通う良さをアピールすべき。</p> <p>●HPの充実を図るべき。</p> <p>●部活動などの実績や活動についての発表は多いが、進学実績を速報として発信し、アピールした方がよい。</p> <p>●PTA活動もコロナ禍のためにかなり制限された。</p> <p>●高鍋高校のイメージ先行ということは理解しました。現在ある悪いイメージを払拭するための具体的な案を聞き取った。</p> <p>○児湯学友団コンソーシアムの設立は大きな成果だと思う。</p> <p>○「高鍋高校だより」は、地区班に入っていない人は目にすることがありません。そのような方にむけてどう発信していくかが課題だと思います。</p>	3.3
	広報活動や情報発信の充実	<p>1. 生徒募集活動の充実</p> <p>2. 多様な情報発信と内容の充実</p> <p>3. PTA広報活動の促進</p> <p>4. 100周年の成功</p>	<p>1. ○初めて、夏・秋2回のOSを実施し、中学生・保護者・職員から高い評価を得た。 ○OSや高校説明会等、在校生が中学生に本校の魅力を伝える機会を多く作ることができた。 △来年度に向けて、中学校や保護者へ高鍋高校の魅力をしっかりと発信するために、KGCとの連携にも力を注ぎたい。 ○生徒が学校紹介動画を作成・配信した(YouTube)。 ○パンフレットとポスターはとても良い出来であった。</p> <p>2. ○新聞・TV・雑誌等のメディアを通じて積極的にPRできた。 ○「高鍋高校通信」(中学校向け)「高鍋高校だより」(近隣地域向け)で、定期的に本校の教育活動を発信できた。 ●HPの更新が遅れがちであった。</p> <p>3. ○PTA新聞はコロナ禍でPTA広報委員会が参加できなかったが、協力して作成し無事発行できた。 △新聞・通信等は、今後整理して統廃合や一本化が必要であれば検討していきたい。</p> <p>4. ○担当部署で定期的に会議をし、計画的に進んでいる。 ○制服の変更について計画的に進めている。 ○他校の100周年行事に参加して有効な視察ができた。 ●コロナのため先が見えず祝賀会の計画を立てられない。 △引き続き、地域に100周年をPRし盛り上げていく。</p>	3.1		
4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	多様な生徒の活動の活性化	<p>1. 委員会活動、各種行事の充実</p> <p>2. 部活動の活性化と学習との両立への支援</p> <p>3. ボランティア活動への参加の奨励</p> <p>4. リーダーの育成</p> <p>5. 個々の活動への支援</p>	<p>1. ○生徒会活動や行事に積極的に取り組んでいる。 ○生徒会執行部と定例生徒委員会の連携がとれている。 ○鳴海が丘祭についてはコロナ対応で大変だったが、生徒会や実行委員会の努力で無事に実施できた。いろいろなアイデアも出ていい鳴海が丘祭であった。 ○生徒会執行部の新たな取り組みが良かった。 △定例生徒会の活性化を進めたい。</p> <p>2. ○コロナの制限下でも、それぞれで工夫した活動ができた。 ●部活動と学習との両立とその支援体制ができていない。 △個別の学習習慣、生活習慣を確立させる必要性あり。そのため部顧問との連携や面談等が必要である。 △部活動のテスト前の活動の在り方を再考する必要がある。</p> <p>3. ○地域要請のボランティア活動には多くの生徒が参加した。「児童クラブ」「かわみなみ電飾大作戦」 ○ボランティアに参加する生徒が増えた。 ○学友団活動については今までの地区割りを再検討し、地区の生徒の活性化が図られるようにした。 ●新しい生活様式に従った「学友団活動」等の地域貢献に向けた活動方法を考えなくてはならない。 ●学友団活動はコロナの影響で不十分であった。 △校内ボランティア活動の在り方や支援学校交流事業については検討中。確実に次年度につなげていきたい。</p> <p>4. ○今年もOSで、生徒主体で学校・学科の説明を行い、中学生やその保護者に積極性をアピールすることができた。 ○CI2・3年生のAコースの生徒が取り組んだ活動の報告会の代表者を、1・2年の授業に派遣して発表させた。 ●コロナの影響もあって、リーダー育成につながる活動ができなかった。</p> <p>5. ○家庭科技術検定1級では、食物調理・被服製作ともに合格率100%を達成できた。 ○生活文化科の情報処理検定では、プレゼンテーション1級全員合格や1級3種目以上に20名が合格した。 ○CI2・3年生のAコースの生徒が取り組んだ、「インターンシップ」と「課題研究」の報告会が実施できた。 △キャリア情報クラスの検定受検の指導の充実を図る。 △多様な進路実現を可能にする生徒個々の活動を、学校として支援する体制づくりが必要。</p>	3.4	<p>○スポーツ、文化の各大会で優秀な成績を収めている点は評価したい。できる範囲で協力していきたい。</p> <p>○生徒会活動がすごく活発だと感じた。すばらしい。</p> <p>●高鍋高校の生徒はすごく「お礼口さん」というイメージ。もったのびのびとしたところがあってもよいのではないかと思う。</p> <p>●部活動の活動時間が遵守できていないため、学習時間の確保が難しい生徒が見られる。</p>	3.7
5 教職員の資質向上	授業力の向上	<p>1. 校内授業研究の実施</p> <p>2. 教師の指導改善</p> <p>3. 共通テストに向けての研究・実践</p> <p>4. 難関大学レベルの教科指導力養成</p>	<p>1. ○校内授業研究は、研究授業も実施し、毎回の協議会も充実して有意義な研修会ができた。 ●研修の成果が日々の授業でどう生かされているかが不透明。 △授業力向上の評価指標の立て方。</p> <p>2. ●生徒による授業アンケートを実施しなかった。</p> <p>3. ○共通テスト対応の指導法の研究を各教科担当者が進めた。 ●共通テスト対応の組織的な取組が不十分であった。 △各教科で共通テストを分析し、対応できる力をつける授業の在り方を、学校全体で研究する必要がある。</p> <p>4. ○担当の先生方が熱心に個別対応を行った。 △難関大学を志望する生徒の意識付けをする組織的な取組が必要である。 △個人レベルの取組を、大学二次試験の特編授業で難関大学を担当した教員を中心に教科全体へ広げていく必要がある。</p>	3.2	<p>●生徒による授業評価を実施した方がいい。</p> <p>○先生方の授業改善の取組に敬意を表したい。</p> <p>○先生方が心身ともに余裕をもって子ども達に接するとよいと思う。</p> <p>○勤務時間を超えてでも指導してください、ありがたい。</p>	3.2
	危機管理やコンプライアンス意識の高揚	<p>1. 危機管理意識の高揚と危機管理体制の充実</p> <p>2. コンプライアンス意識の高揚</p>	<p>1. ○外部講師を招いて救急法講習会を実施し、エビデンの使用方法を学んだりAEDを使った人命救助について一連の動作確認を行い技術向上を図った。 ●危機管理を計画する職員数の配置が十分でなかった。</p> <p>2. ○年間2回コンプライアンスチェックを実施した。 ○教育委員会の専門主幹によるコンプライアンス研修を行い、職員の意識づけを行った。 △今後も、コンスタントにコンプライアンス意識を高揚する研修の実施が必要である。</p>	3.0	3.4	
	働き方改革の推進	<p>1. 時間管理意識の高揚</p> <p>2. 業務の効率化</p>	<p>1. ○盆の時期の閉庁日設定や長期休み中の課外の精選により休暇を取りやすいよう工夫した。 ●時間外勤務が月80時間を超える教員が多数いる。心身に支障が及ばないように管理職の指導が必要。 △時間外の電話対応を留守番電話にすることを検討する。</p> <p>2. ○業務の棚卸をして、内容の見直しと精選をする契機とした。 △新たな校内組織を作ることで、各部の業務の重なり等の見直しを進める。</p>	3.2	3.2	